

合同教育研究全道集会2018

11/3(土・祝)～4(日)

=会場=

札幌市教育文化会館
高等学校教職員センター
札幌市資料館
かでの2・7

● テーマ討論【3日 10:15～12:30】

- ① 教師と子どもで、しなやかに実践をつくる
～新学習指導要領でも ゆたかな「学び」を～
- ② 学校と地域がつながればこんなにおもしろい
- ③ 青年の基本的な人権を考える
～若者が語る「私の過去・未来」～
- ④ 『北海道150年』～侵略＝開拓の下の150年ではなかったか～



● 分科会【3日 13:45～16:45 / 4日 9:30～15:00】

● 教育の夕べ【3日 17:45～19:45】

記念講演

「新学習指導要領を
主体的につかむ」

梅原 利夫さん



Profile

民主教育研究所代表運営委員、和光大学名誉教授
近著「新学習指導要領を主体的につかむ」(新日本出版社)では、「改訂学習指導要領」の問題点を明らかにするとともに、若い教師の苦悩と挑戦にもふれ、打開の方向を探っています。

子育てのこと、学校のこと、みんなで話し合いませんか。
「全道合研」は子育てや教育にかかわる人々による、誰でも参加できる教育研究集会です。

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして

■主催:2018合同教育研究全道集会実行委員会 ■連絡先・事務局(北海道高等学校教職員センター内)
〒060-0042 札幌市中央区大通西12丁目 TEL / 011-231-0816 FAX / 011-241-8510
HP / www.goken-hokkaido.jp

●分科会のご案内

分科会名横の（ ）内の数字は、各自で印刷・持参いただくレポート部数です。

<p>1 国語教育 (30)</p> <p>ことばを「情報」として操作するだけ。文学作品も読まない、作文も書かないー最近の流行のこんな授業は国語教育ではないーと怒っているみなさん！本当の意味で生きる糧となる国語教育を、参加者みんなで作ってあげてみませんか？（レポートには教材の原文添付を）</p>	<p>7 書教育 (20)</p> <p>小学生の毛筆指導から高校生の作品展示まで、幅広い参加者ニーズに応える分科会を目指しています。</p>
<p>2 外国語教育 (30)</p> <p>「グローバル人材」「コミュニケーション能力」「小学校での教科化」「大学入試改革」。現場を揺るがしているこうした教育政策のキーワードをもとに、真の外国語教育の目的を確かめながら、子どもの明るい未来につながる授業づくりを語り合しましょう。</p>	<p>8 音楽教育 (20)</p> <p>音楽は、人が豊かに生きていくために欠かすことのできない文化です。音楽の授業は、子どもと教師が教材を真ん中にして文化を育む場です。ささやかでも、普段着の実践を持ち寄り、語り、歌い、学び合いましょう。授業等で録音・録画した物を持ち寄ります。</p>
<p>3 社会科教育 (40)</p> <p>人類の歴史的・地理的歩みを理解し、民主主義・平和・人権保障の実現を目指す社会の在り様を知り・考えるためには、いかなる授業実践が必要なのか。その内容・方法について、参加者一同で協同し、開発・継承・発展の場にしましょう。</p>	<p>9 技術・職業教育 (20)</p> <p>技術・職業教育では、近年、各教科の専門性を活かし、地域と連携した多くの実践や、進路指導、労働問題に関する実践を積み上げてきました。身近な問題などを中心に数多くの実践を持ち寄り、学び合いましょう。</p>
<p>4 数学教育 (30)</p> <p>「数学は本当におもしろいんだなという気持ちになる授業をするにはどうしたらよいか」について自由な雰囲気です話し合い、ちょっとした工夫を持ち寄って、見晴らしのよい数学と数学教育の世界を味わいましょう。</p>	<p>10 家庭科教育 (20)</p> <p>生命と生活の再生産にかかわる学習を担う家庭科は、子どもが直面する生活の困難にどのように迫り、何を提起していくべきなのでしょう。現在と将来にわたる生活の主人公を育てるため、大いに意見交換しましょう。</p>
<p>5 理科教育 (30)</p> <p>北海道の子どもが自然科学を豊かに学ぶことができるよう、授業づくり、実験教材やものづくり教材の開発、地域の自然の教材化について語り合いましょう。子どもがいきいきと活動して学ぶことができる授業をつくりましょう。</p>	<p>11 保健・体育教育 (保健20・体育20)</p> <p>保健・体育で求める本当の学力とは何か。子どもの現状を語り合い、いかに子どもの命や体を守り育てていくのか交流しましょう。また、食・健康・運動文化の主人公に相応しい力をすべての子どもに保障する教育を考えましょう。</p>
<p>6 美術教育 (20)</p> <p>豊かな情操を育む美術教育は子どもたちの人格形成に欠かすことができない学習活動です。この分科会では持ち寄った児童生徒の作品を囲み、より良い授業実践をめざして、その考え方や手法などを語り合います。</p>	<p>12 総合学習・生活科 (30)</p> <p>「何を学ぶか」「なぜ学ばせるか」という視点からの授業づくりが、総合学習・生活科の実践を豊かにしていく報告が近年増えています。「深い学び」を実現する生活・総合実践について語り合いましょう。</p>



※17、18分科会は1日目を共同開催します。

<p>13 特設 道徳 (30)</p> <p>小学校では「道徳科」が教科書を使用する全面実施になり、課題やそのとりくみの困難さも浮き彫りになっています。子どもたちの発達・人格形成にとって、道徳的な問題を考えたり実践することには積極的な意味があります。レポートを尊重した交流・論議を行いましょう。</p>	<p>19 国民のための大学づくり (30)</p> <p>大学から自由と自治が奪われ、学問と教育をグローバル国家づくりへと動員する体制がつけられつつあります。高大接続と大学入試改革、「専門職大学」など、統制・競争・分断の政策を乗り越え、学問と青年期の発達保障のあるべき姿を探ります。</p>
<p>14 学校と家庭の生活指導 (30)</p> <p>子どもたちの声を聞き、子どもたちを大切に作る学級づくり、授業づくりなどの実践を交流します。学校を息苦しくさせるゼロトレランス、学校スタンダードなどの一斉指導、拡がる格差と貧困。いま、必要な生活指導、子ども支援は何かを討論します。</p>	<p>20 障害児・障害者の教育と福祉 (100)</p> <p>1日目は特別支援における「集団づくり」をテーマに実践交流を北海道教育大釧路校の戸田竜也先生のコーディネートで行います。二日目はレポート討議を通じて障害児・者の教育と福祉の現状を語り合います。</p>
<p>15 教育条件確立の運動 (30)</p> <p>ゆきとどいた教育の実現には、「人・物・予算」の裏付け、すなわち教育条件整備が不可欠です。教育予算や教育費負担、学校統廃合、教職員定数増と労働条件改善など、切実な課題について学び、語り合しましょう。</p>	<p>21 環境・公害と教育 (30)</p> <p>公害問題を原点とする当分科会は、環境問題、自然保護教育のあるべき姿を探ってきました。近年、気候変動に伴う災害の激化や地震など問題は多岐にわたりそれぞれ深刻さを深めています。さらに大地震や原発事故、放射性廃棄物問題、エネルギー政策などについて深く語り合しましょう。</p>
<p>16 教育課程・学校づくり (30)</p> <p>子どもを中心とした教育課程を、教職員・子ども・保護者・地域が力をあわせてつくっていくために、お互いの実践や思いを交流しましょう。また、様々な課題をかかえる子ども達の実態や教育課程についても、じっくり語り合しましょう。</p>	<p>22 平和・憲法、人権・民族と教育 (憲法20・民族20)</p> <p>安倍自民党政権下で、予断を許さない「憲法論議」。これに対する実践と理論を学びあいましょう。北海道150年をアイヌの視点で考えるならば、まさに侵略や略奪く生活権・文化・言語等々>の150年である。厳しく討論したい。</p>
<p>17 地域における子育て・学習運動 (30)</p> <p>現代は多様な家族が増え、子どもの生活に大きな変化が見られます。子どもが生き生きと育つ環境づくりが地域共同活動に求められています。PTA活動、子どもの貧困、若者の地域参加など地域からの実践報告に学び交流します。</p>	<p>23 子ども・青年の発達と教育 (30)</p> <p>子どもや青年の「発達援助」に携わる大人として、何が出来るかを共に考え語り合う分科会です。保育、小・中学校、高等学校、フリースクールなど、乳幼児期から青年期までの長いスパンで「人の発達」を見通し、子ども理解をより豊かなものにしていきましょう。</p>
<p>18 地域と学校の文化・スポーツ活動 (30)</p> <p>子どもたちを人間的に成長させる上で、文化・スポーツ活動は大きな役割を担っています。しかしながら、そこには様々な課題や困難な状況があることも事実です。奮闘されている方々の実践をもとに、その解決に向けて、みんなで話し合しましょう。</p>	<p>24 不登校・登校拒否・高校中退 (30)</p> <p>不登校の子どもやひきこもりの青年に安心して成長できる居場所が求められます。親の困難な生活実態や「教育機会確保法」の検討を深め、学校現場のとりくみ、親の会、支援団体の努力を語り合しましょう。</p>

◆ご案内◆



子どもを中心にした 教育・学校を！



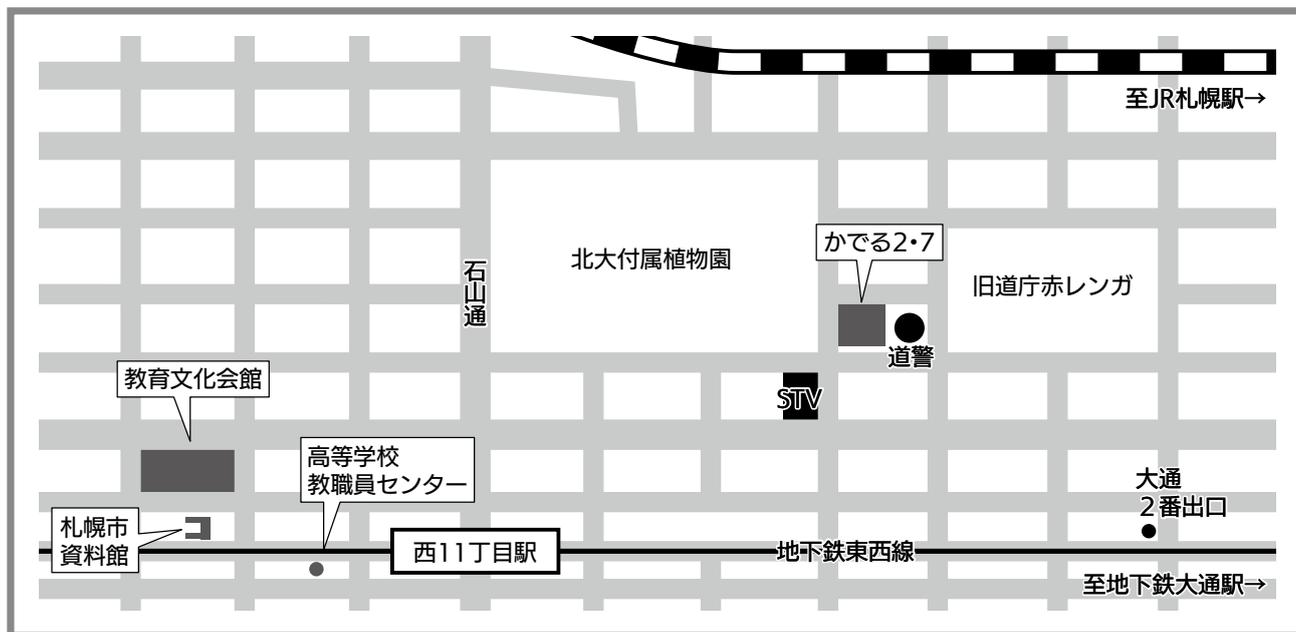
- 「教育の夕べ」は参加費500円が必要です
- 保育所を用意しています。申し込みは事務局へお願いします
- 障がいのある方の参加は、会場準備の関係上あらかじめ事務局へご連絡ください
- 昼食は各自ご用意ください

●会場案内

=主な交通機関=

- ▶札幌市教育文化会館
- ▶札幌市資料館
- ▶高等学校教職員センター
地下鉄東西線 西11丁目駅
- ▶かでの2・7
JR札幌駅
地下鉄南北線札幌駅・大通駅

	分科会開催No.	開催日時
▶札幌市教育文化会館 →	3・5～18・20 (中央区北1条西13丁目 ☎011-271-5821)	11/3・4
▶札幌市資料館 →	12 (中央区大通西13丁目 ☎011-251-0731)	11/4
▶高等学校教職員センター →	19・21～24 (中央区大通西12丁目 ☎011-231-0816)	11/3・4
▶かでの2・7 →	1・2・4 (中央区北2条西7丁目 ☎011-204-5100)	11/3・4



●レポート参加される方へ

1. 教職員の日々の実践や子どもの様子など簡単なものでかまいません。A4の用紙一枚程度から発表できます。
2. レポート参加する場合、各合研加盟団体を通じて合研事務局へ連絡してください。(10/19まで)
加盟団体以外のレポート参加は、合研HPに掲載の「エントリーシート」で報告してください。
3. レポートの作成方法・注意事項
 - ・レポートはA4版で表紙には「テーマ」「分科会」「所属・氏名」を明記してください。
 - ・レポートは各自が印刷しご持参ください。(部数はリーフの分科会名横の「レポート部数」参照)
 - ・プライバシー侵害の恐れがありますので、実名記載は避け個人が特定されないようご配慮ください。
 - ・教研集会の主旨を踏まえ、報告・討論の際には生徒や参加者の人権に十分配慮してください。
 - ・レポートの「非公開」を希望する場合、表紙に朱書きで「非公開」と明記してください。
 - ・レポート発表に使用する機材は、必要最小限をお願いします。必要な場合、あらかじめ事務局へお申し出ください。
4. その他詳細については、合研HP www.goken-hokkaido.jp をご覧ください。

